

平成31年1月10日

村上市議会議長 三田 敏秋 様

村上市議会総務文教常任委員会  
委員長 鈴木 いせ子

## 行政視察報告書

下記のとおり、総務文教常任委員会の閉会中継続調査(行政視察)を行ったので、その結果を報告します。

### 記

- 1 期 日 平成30年10月22日(月)～10月24日(水)
- 2 調査地 鹿児島県南九州市・鹿児島県鹿児島市・熊本県熊本市
- 3 参加委員氏名 鈴木いせ子委員長 小杉武仁副委員長 鈴木好彦委員 小杉和也委員  
本間清人委員 佐藤重陽委員 三田議長 (計7名)
- 4 調査項目 (1) 平和推進事業(鹿児島県南九州市)  
行政が取り組む平和教育について  
(2) 名勝 仙巖園・世界文化遺産 尚古集成館(鹿児島県鹿児島市)  
(3) 震災復興(熊本県熊本市)  
震災時の対応と復興について
- 5 調査目的 (1) 戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さ等の平和教育について取り組む現状について調査することを目的とする。  
(2) 仙巖園、尚古集成館にかかる歴史と文化について把握することを目的とする。  
(3) 震災時における対応とその後の復旧に向けた取り組み状況の現状と課題について調査することを目的とする。
- 6 調査概要  
(1) 「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について(鹿児島県南九州市)  
[対応者] 知覧特攻平和会館 館長 朝隈様  
南九州市議会事務局 局長 下園様  
[経過] 講和室において担当者から資料により、施設の概要や建設の経緯と目的、管理・運営状況等について説明を受けたのち、各委員からの質疑を行った。また、語り部

の方から「命の尊さと親子の絆」ということでお話をお聞きした。  
その後、各自施設の各コーナーの展示品等について見学し事務調査を終えた。



(2) 仙巖園・尚古集成館について（鹿児島県鹿児島市）

[経過] 担当の方の説明を聞きながら施設内を視察した。



(3) 震災復興について（熊本県熊本市）

[対応者] 熊本市政策局復興総室 横田主幹  
熊本市議会事務局 廣島様

[経過] 担当者から、資料をもとに熊本地震の概要及び熊本市の対応について説明を聞いた後、対応の内容、課題等について各委員からの質疑を行った。その後市役所の展望フロアから熊本城の復旧状況について視察し事務調査を終えた。



## 7 各委員の所感

### 鈴木いせ子委員長

#### 【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】

昭和40年代に少飛会、特操会など特攻関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館建設」の声が続出し全国の特攻関係者や一般有志の募金を呼びかけて浄財による建設を計画して始まり、昭和49年に「特攻遺品館」として建設され、昭和60年から平成27年までの間、10回の増築を重ね、名称を「知覧特攻平和館」として今は38万人もの観光客が訪れる地となったという。

遺族が、世代交代交代しつつある中、資料の散逸、消失が予想されるので、資料の収集と保存展示に努め、特攻の史実を後世に正しく伝えるようにしているという。市の直営で語り部が5名いて、涙無しには聞けないお話をお聞きしました。

村上市にもたくさんの施設があります。今一度その意味をしっかりと伝えていかなければならないと感じて来ました。そして何よりも大事なのは子ども達に「平和教育」のあり方を考えさせられました。

#### 【仙巖園・尚古集成館について】

仙巖園・尚古集成館は島津公の別荘で、うしろの山々を背景にして大庭園が広がり、歴史を伝える建造物でした。今も桜島は噴煙を上げ、時には数センチの灰が車にも積もることがあるとお聞きしました。運営は島津公の末裔の方が会社を立ち上げ運営しているとのこと。案内する方も着物姿で趣きがありました。こんな時代もあったのか、こんな歴史もあったかと感慨深く研修しました。村上市も城下町です。昔からの歴史建造物をもっと多くの方に知ってもらえればと思いました。村上市には立派なお寺がたくさんあります。この庭巡りも観光につながると思いました。

#### 【震災復興について】

熊本城の復旧整備はパンフレットで石垣崩落や天守内側等は知る事が出来ました。熊本市役所からは天守閣の復旧に大型クレーンが2基上がっているのが見えました。全部復旧するには10年かかると言っていました。

復興に向けた取組みの状況について担当者から詳しい説明がありました。熊本市は平成24年

4月に全国で20番目の政令指定都市となっております。人口738,407人、世帯数321,329き  
っちりとした計画が出来ておりました。

- 一人ひとりの暮らしを支えるプロジェクト
- 市民の命を守る「熊本市民病院」再生プロジェクト
- くまもとのシンボル「熊本城」復旧プロジェクト
- 新たな熊本の経済成長をけん引するプロジェクト
- 震災の記憶を次世代につなぐプロジェクト

その中で、何をどのようにいつやるのかがきちんと示されておりました。村上市にとっても参  
考になる素晴らしい資料でした。

復興景気がある事も知りました。復興には地方から応援があり、国からの支援も何兆円単位で  
入ってきているので、今はにぎわっているとの事。問題は、これが終わった時にどうなるのか。  
それが心配だとも言っていました。詳しい復興計画はこれからの村上市が取組む時に参考になる  
素晴らしい資料でした。担当課に渡します。

#### 小杉武仁副委員長

##### 【「知覧特攻平和会館」行政が取組む平和教育について】

村上市から1,550km離れた鹿児島県南九州市にて『平和推進事業』行政が取組む平和教育  
について視察に伺い、旧知覧町の特攻平和記念館にて、南九州市の議長様はじめ、市職員から  
お迎えいただき、平和記念館の研修室にて平和教育の取り組みについて、丁寧にご説明いた  
きました。

南九州市では太平洋戦争末期の沖縄戦において、人類史上類のない特攻作戦で亡くなられた  
陸軍特別攻撃隊員の遺品や関係資料等を収集し、史実を通して二度と悲惨な戦争を起こしては  
ならないと平和のメッセージを発信し、平和の大切さや命の尊さを後世に語りつぎ、世界恒久  
の平和に寄与することを目的に昭和49年に運動公園の休憩施設の一部を特攻遺品館として建設  
され、その後昭和62年2月に知覧特攻平和会館と改称し、場所を移して現在の場所に建設され  
たのご説明でした。平成29年度は約38万人の来場者があり、収支としては毎年積み立てが  
出来る状況にあるとお話したので、行政がおこなう直営事業としては上手くいっている  
と理解いたしました。

平和教育の取り組みでは、修学旅行などの研修において実績があり、29年度では小学校248  
校・中学校147校・高校117校その他8校で、520校の約47,000人が来館したとのことでした  
が、訪れる生徒の皆さんは施設の説明員による講和をはじめ、館内に展示されている特攻隊員  
たちの遺書や手紙などを通して、特攻の事実、戦争の悲惨さ、平和のありがたさ、命の尊さ、  
家族の絆を学び父母へ宛てて感謝の気持ちを手紙にするという教育活動がなされておりました。  
私どもも研修の終わりに説明員の方から、第二次世界大戦が始まる真珠湾攻撃から沖縄戦争の  
状況を解説していただきましたが、戦況が深刻になった昭和20年3月には本土最南端の航空基

地というよりは陸軍の特攻基地として位置づけられ、日本全国から集められた17歳～35歳の若い隊員が、決死の覚悟と精神力で沖縄本島まで650kmに向けて知覧から出撃したお話には胸が痛む思いでしたが、陸軍関連の総出撃者1,036名のうち439人が知覧からの特攻出撃であり、新潟県からも17名の方が知覧から特攻で沖縄に向けて飛び立ったとのことでした。

特攻隊員の最後については、両親をはじめ最愛なる人や子どもたちへ最後に書いた手紙なども解説していただきましたが、私の長女と同じ年代の若い方々が国の為に家族の為にとはいえ、尊い命を捧げられた事実は、万感胸に迫る思いで拝聴いたしました。やはり辛すぎるものであります。尊い命の犠牲のうえに現在の日本の平和があるということは決して忘れてはならないことでもあります。

研修では私が知っている以上に壮絶な沖縄戦や本土決戦に向けた特攻隊の事実でしたが、二度と悲惨な戦争を繰り返すことは断じてならず、今の時代を生きる責任世代として恒久平和をしっかりと堅持し、広めていかなければならないと改めて強く決意するものです。また、平和教育事業のひとつとして全国の小中学生が知覧からの特攻を知り、戦争について率直に感じた意見発表コンクールなども行われており、子どものころから平和社会について考えるよう、教育活動がなされていましたが、村上市としても戦争は過去の歴史だけでなく、風化しないよう平和に対する教育の大切さを理解し、平和記念式典等へ児童や生徒の派遣を拡大することも含めて、平和教育を考え実施して欲しいと思いますし、歴史を振り返ることで現代社会での視野を広げる実習も必要ではないかと捉えます。

平和教育の取り組みにおいて多くの学びを得ましたが、平和に対する意識と教育については一人一人に何が出来るかを深く考え、議論・検討を十分に行い実施することが必要です。戦争についてはそれぞれの感じ方や意見がありますので、平和教育では事実を正確に伝え感じとることが求められますが、戦争を知らない親たち、戦争を知らない子どもたちが大半を占める社会において、日本の歴史を改めて学ぶ大切さを感じると同時に、次世代に史実をどのように伝える必要があるのか考えさせられました。

また、村上市の各地域で平和祈念碑保存会やご遺族が主催される平和祈願祭ですが、高齢化しているために毎年開催を心配されている戦没者ご遺族や記念碑保存会について、平和祈願祭等の実施は南九州市においてご苦労はないか質問したところ、実施されている慰霊祭も64回目となったが、村上市と同様に高齢化の問題があり、戦争体験者やご遺族も不安の声が出ているとのことでしたが、将来の慰霊祭の在り方についても具体的な検討をしなければと感じました。

#### 【仙巖園・尚古集成館について】

明治維新の原動力でもあった薩摩藩ですが、藩主島津斉彬氏が築いた機械工場「尚古集成館」と島津家ゆかりの「仙巖園」を訪問し、近代日本をリードした薩摩の歴史と文化を学びました。

仙巖園は鹿児島城の別邸として、薩摩藩主19代島津光久によって江戸時代初期の万治元年

1658年に築かれ、鹿児島県を代表する桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた壮大な景色を望む庭園は、美しく手入れされた植木や四季折々の表情を見せており、国内に現存する大名庭園のスケールに驚かされました。

敷地は50,000㎡と広大で、その中に御殿と呼ばれる邸宅や望嶽楼（琉球王から贈られた中国風の四阿）、錫門（江戸時代の正門）、子乗大石灯籠、鶴灯籠、珍しい植物など沢山の見所があり、幕末以降は薩摩藩や鹿児島県の迎賓館としての役割も担い、天皇陛下を始め国内外のVIPが多く訪れているとのことですが、敷地面積の広さと雄大な桜島と錦江湾を一望できる薩摩藩主の贅沢な生活に驚くばかりでしたが、同時に当時の人の智恵の豊かさと設計技術の素晴らしさに感銘を受けました。

仙巖園は江戸時代のままの姿で遺されているのも特徴のひとつですが、NHK大河ドラマ「西郷どん」も放映されていることから、日本全国はもとより世界からも注目を集めておりますが、現在まで約800年にわたって続く島津家の思いが代々受け継がれ庭園にも表れているようで、歴史に心を動かされるようでありました。

西郷隆盛や大久保利通といった日本を代表する偉人たちが生まれた地域であり、重要な歴史文化を守り続けてきた島津家や薩摩藩の歴史を間近で感じられました。

敷地内にある尚古集成館は、薩摩藩主28代島津斉彬によって始められた集成館事業の一環として、1923年5月22日に開館されましたが、現在は（株）島津興業によって運営され、島津家に関する史料や薩摩切子、薩摩焼などが展示され、本館は1865年に建てられたもので国の重要文化財となっており、日本で初めてアーチを採用した石造洋風建築物で2015年「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」を構成する「旧集成館」の機械工場として世界遺産として登録されています。

中でも、仙巖園の入口近くに遺されている「反射炉跡」は、島津斉彬が推し進めた近代化を象徴する遺産の代表となりますが、反射炉の内部で熱を反射させることで高温にして鉄を溶かし、150ポンド（70kg）の砲弾を放つことができる鉄製の大型の製造をしており、大型の飛距離は約3kmにも及び当時の日本においては革新的な設備であり、先を見据えた先進的な取り組みに驚くばかりでした。

鎖国下の日本で、貿易によって新しいものを積極的に取り入れるだけでなく、輸出して外貨を得ることまで考えていた薩摩藩ですが、その技術力や工業力をはじめ発想そのものが革新的だった薩摩藩の取り組みを体感いたしました。近代日本の発展を支えた薩摩の歴史を肌で感じることができ、幕末ファンならずとも惹きつけられるのが理解できた気がいたしました。

感じとったことは鹿児島市内から日本を動かした偉人が輩出されたことを背景に、この地域に昔から根づいた歴史に学ぶ教育環境やシステムがあることと、地域をあげて子どもたちに対して明治維新を通じて日本をつくったのは鹿児島県人だということを伝える努力を長年にわたり文化財等を活用して取り組んでいる点でありました。村上市においても歴史深き財産や偉人が存在していることから、学校教育や学習においても深く学ぶ必要性を感じました。

また、施設内でひときわ目を引いたのは江戸末期に薩摩の地で誕生し、篤姫が嫁入り道具のひとつとして徳川家に献上された鹿児島県の伝統工芸品の薩摩切子でありました。

島津斉彬が広めたとされていますが、1863年の生麦事件に端を発した薩英戦争で集成館は英国艦から砲撃を受け、薩摩切子を含む多くの工場が壊滅。さらに1877年の西南戦争が追い打ちとなり、薩摩の特産品として製造が開始された薩摩切子は数十年で姿を消すことになりました。一度は歴史に幕を閉じた薩摩切子でしたが、1985年に島津家の子孫と地域の人々の力によって復元活動が始まり、腕利きのガラス職人や研究者たちがこの地に集められ復活を果たしたそうです。一度は幻と化した薩摩切子であったわけですが、復活から四半世紀が過ぎた今、薩摩切子では30名の職人が技術を継承しているとのことでした。鹿児島の伝統を地元の若者に受け継いでほしいという切なる思いから、新たな歴史を築くべく薩摩切子の製造と継承に日々挑んでおられました。

村上市においても伝統的工芸品の羽越しな布や村上木彫堆朱は、後継者不足等で技術の継承において大きな課題を抱える時代になってきたわけですが、歴史の中で伝統を継承しつつ決して絶やさぬよう進化や発展を遂げる努力を官民一体となって継続して取り組む必要性を感じた次第です。

また、地域の文化財を守り後世に残す責任を果たすためには、地域が一体となって危機感を共有し、意識改革を図ることが重要だと捉えますし、歴史財産を活用して、村上市における外国人旅行者を取り込む施策にも本腰を入れなければと感じる次第です。

このような取り組みを推進していくためには、行政と民間、民間と地域、地域と行政、民間同士をコーディネート、マッチングさせる団体、キーパーソンを発掘、人材を誘致し育成などの取組も並行して進めていくことも必要だと感じました。

村上市に足を運んでくださる方々快適感や満足感を持ち、再び村上市に来訪していただける意図を創出することが重要なのだと深く考えさせられ現地視察を終えました。

### 【震災復興について】

『震災復興』震災時の対応と復興について、熊本県熊本市へ伺い熊本市役所で職員の方から発災当時の対応や課題等についてご教示いただきました。

熊本地震における被害と復旧状況については、全国から視察に訪れる自治体関係も多いためか、データ検証が進められた資料が多く揃えられており、大変参考になる資料を提供していただき、熊本地震全体の概要説明を受けましたが、地震発災時の最大避難所数 267 箇所、最大避難者数約 11 万人が避難所生活を余儀なくされ、避難時の通行止め箇所は市全域で約 200 箇所にもなったそうです。

この様に同時に何百箇所にもおよび災害で被害が発生した場合、早急な復旧のためにも災害時応急活動に関する調整を速やかに図り、マニュアルを活かせることが出来る防災行政のあり方と必要性を感じましたが、現実的には行政の災害マニュアル対応は機能せず、毎日のように混乱の連続だったというお話に、地域防災の在り方と大きな災害を想定した防災訓練の重要性

を感じた次第です。

大規模な震災が発生すると、高速道路をはじめ、道路インフラの重要性がクローズアップされますが、震災当日に高速道路が閉鎖されることなどもあり、避難経路に必要な道路機能が一時的に麻痺してしまったとのことでしたが、高速道路をはじめとする交通インフラの損傷は、被災地のみならず、周辺地域全体の日常生活や経済活動に多大な負の影響を及ぼすことにもなります。そのことを踏まえ、まちづくりと連携した代替性を有する高速交通ネットワークをはじめ、道路インフラのハード的な拡充や強靱化はもちろんのこと、ソフト的な運用の仕方の整理や整備が重要であるとも捉えます。

熊本は 400 年以上もの長い間、大きな震災や災害がなかった事もあり、熊本地震は行政をはじめ市民の方々もまったく想定していなかったというお話でしたが、震災後の様々な検証では、自助・共助・公助の観点においても長期的な取り組みが必要とされる施策も多く、災害復興事業も多方面に渡りご苦労が多い様でした。市民生活の再建や地域経済の復興等のため、公的資金や公的支援を確保しつつ早期復旧を進めてきた結果、災害対応力が発揮されて地域防災の強化に繋がっていることは素晴らしいことだと感じました。

しかしながら、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている方や、支援施設等に身を寄せて生活されている市民の方も多いというお話でしたが、日常的に現場の状況を把握し被災者の要求に沿った支援について、スピード感をもって対応している事は職員間の連携も図られ同時に市民の生活を 1 日も早く取り戻すためだという思いが職員のご説明からも伝わり、互いの支え合いを重要視した体制づくりは素晴らしい取り組みだと感じとりました。

この度の現地調査では被災地の実情をリアルに知りえたわけですが、当該自治体だけでは復興は進められる状況にはなく、国や県との連携を図りつつ公助の充実と復興予算の確保に努めていく事も重要な視点なのかもしれません。

熊本市では震災関連における行政対応の失敗事例を積極的に開示されており、想定以上の被害が出たことでマニュアルなど全く役に立つことはなく、混乱状況に応じた柔軟な対応も出来なくなり市全体が混乱に陥った事例などのデータ資料を提供していただき、自治体組織における防災に役立てる必要性と、今後の自主防災や地域防災における課題解決につなげていきたいと思っております。

また、市民の命を守る基幹病院でもある熊本市民病院も震災直後には倒壊の恐れがあり、病棟の天井や壁の一部崩落や給水施設等の被害により、診療の継続ができない状況となってしまったため、現在では一部の診療科を除き外来診療を再開したものの、本来の病院機能の大半は失われた状態にあるとの事でした。このような事態に直面し、市民病院として担ってきた機能を 1 日も早く取り戻すため、早期の再建を目指して熊本市民病院再建基本計画を策定して進めているとのことでした。

震災後の瓦礫の撤去や様々なインフラ整備において、ある程度の目途がついてきた今からが被災地にとって本当の復興期となってくると感じますが、熊本市は素晴らしい観光資源が多く



存在しており、地元の産業としてとても重要なものとなっています。観光の目玉といえば市の中心部にそびえ立つ国宝の熊本城となりますが、地震直後から甚大な被害を受けました。

震災から 2 年半の月日が経過する現在は、全国から来ていただく方にあえて見せる復興として、城の修復作業を見学してもらおうということでしたが、修復の進む天守閣をはじめ、立ち入り規制が解除された櫓などの再興に取り組む様子を見ることで身近に感じてもらうと同時に、全国から宮大工をはじめ技術を極める職人さんが多く視察に訪れているとのことでした。

修復には 20 年もの月日がかかるといわれておりますが、歴史的価値のある今の熊本城を目にした事もあります。被災地へ足を運ぶことで観光ボランティアとなり、直接被災地を支援する事に繋がってくるとも感じた次第です。

### **鈴木好彦委員**

#### **【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】**

鹿児島県の知覧というところに、特攻基地があったということはテレビその他により耳にはしていたが、日本の戦争責任や若い青年が死を覚悟のうえ死地に飛び立っていったという現実の直視を避けてきた。

このようなことから今度の視察で、知覧の基地は特攻隊員の出撃基地であり、特攻隊員の訓練基地ではなかったということを知り、認識を新たにしました。

これまでの知覧についての情報として、戦争を体験した人たちが体験を通して知覧の歴史や平和への願いを伝える活動をしているという人たちがいるということでしたが、戦後 73 年もたち、戦争を体験した人たちがいなくなりつつあるこれから、知覧の一つのスタイルが維持できなくなるだろということに関心があったところです。

この点を尋ねると、施設側もその問題を把握していて、語り部がいなくなったときは学芸員を養成し対応したいとのこと。語り部の迫力に迫るものは難しいと思いますが真実や事実だけを学芸員に語らせる迫力はこれに勝るものはないものと思われる。

当市の歴史を紹介する上でも、事実に基づいた真実を伝えることが、歴史の迫力を伝えることではないかと思われた。

#### **【仙巖園・尚古集成館について】**

幕末の村上藩と薩摩藩が同じ時期に外の世界を見る目とテクノロジーに違いがあったことに驚かされる。

幕末から明治維新にかけた幕府側と新政府側の違いは、先代から受け継いだ権威を無批判に受け継いだ幕府側構成勢力と既存勢力や既得権の合理性に疑いを持った勢力とのせめぎあいの一面を持っていた。

また、海外に目を向けていたからなのか、物事のスケールの違いが歴然と感ぜられる。いわゆる、最初っから器が違うということが感ぜられる。

このことから、村上らしさの中に、村上らしからぬ立ち位置からの見方が必要であることを感

じた。

#### 【震災復興について】

震災対応、震災後の復旧対応について、説明をいただいたが、自分の責務、自分の責任範囲が決まっていないと具体的に事例を咀嚼することは非常に難しいことでした。

その中であって、マンホールトイレの設置件数が20基から90基に増えている。この狙いと効果について確認したいところでしたが、担当外とのことで、質問から外されたが、今後もこの件については追跡したいと思っている。

さらに、貯水機能付き給水管についても、0基だったものが21基まで増えているそのねらいと災害時の機能について確認したいところでした。この設備が震災の被害から免れる秘訣を明らかにしたいものです。

村上市においても、給水ストップに備え貯水機能付き給水管の検討と自家用井戸のデータベース化を行うべきと感じた。

#### 小杉和也委員

##### 【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】

知覧特攻平和会館は、太平洋戦争における沖縄戦で、この国の平和を守るという使命のもと、多くの若者がこの知覧という土地から爆弾を積んだ飛行機で体当たり攻撃という悲惨な作戦を遂行し、多くの尊い命が失われた基地の跡地に建っています。

建設の経緯は昭和40年代に特攻の関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」の建設の声が続出し、募金を呼びかけて建設を計画したそうで、オイルショックの影響を受けて一時は頓挫しましたが、その後は昭和49年に過疎債を利用して「特攻遺品館」が建設され、その反響の大きさから昭和62年に特別対策事業で現在の場所に建設（4倍弱の広さ）さらには増築を繰り返し、現在では約3200㎡の延べ床面積になっています。

このように増築を繰り返したのは、遺族から資料が続々と収集されたことや、平和教育の場として訪れる学校が多くなったことがあげられ、現在の修学旅行は500校、約2万人、全体の入館者約38万人であり、交通が不便なところにありながら、二度と戦争は起こしてはならないといった思いがあるからだと判断できます。

課題としては遺族が世代交代しつつあり、資料の散逸・滅失が予想されることから、資料の収集と保存維持が必要であり、また教育・普及活動面では館内案内人（語り部）の確保、身分保障などが重要になってくると考えられます。

村上市では、小学校で平和教育を行い、実際に広島で原爆に被爆された方を招いて、生の声での講演も行っていますが、今はお一人のみで、今後は生の声を聞ける機会が少なくなることから、それを伝承する語り部の確保もしくはDVD等の録画が急務です。

南九州市では、平和教育の事前学習を行ったのち、知覧特攻平和会館を訪れるのを年1回全市内小学校・全市内中学校の必須科目にしたそうで、平和教育を語り継ぐためには、こういった

思い切った教育方法も必要なのかもしれませんが。

村上市は、戦争の惨禍を二度と繰り返すことのない社会と人類の恒久平和を一日でも早く実現するために、非核平和を願う全ての国の人々と手を携えることを誓い、平成21年8月28日に非核平和都市宣言を行い、平和祈念碑保存会の皆さんが平和祈願祭を執り行っております。平和祈念碑保存会の皆さんは、会員が高齢化してきたので、村上市で開催してほしいとの要望が出ていますが、南九州市は市営の施設用地内に建っている慰霊碑があっても、平和慰霊祭は民間（遺族）だそうで、市行政が開催するという事は高いハードルがありそうです。

平和教育を教える先生方も戦争を知らない世代ばかりになったので、戦争の悲惨さを直に感じ取れる知覧特攻平和会館や広島原爆資料館などへの研修があっても良いと思います。

#### 【仙巖園・尚古集成館について】

鹿児島市所有ではなく、島津家の方（島津興業）が経営され、平成27年には明治日本の産業革命遺産（製鉄・製鋼、造船、石炭産業）として世界遺産登録された建物です。

江戸時代初期の1658年に19代島津光久公によって築かれた薩摩藩主島津家の別邸であり、目の桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた壮大な庭園は他に類を見ないスケールの大きさで、中国・琉球文化の影響も随所に見られます。

庭園も見事です。28代島津斉彬公が他に先駆けて近代化・工業化に取り組んだ日本最初の洋式工場群「集成館」は、現在でもきちんとした形で残っており、当時の島津家の財力のすごさを感じます。

明治の終わりから太平洋戦争の終戦後まで住人不在だった時期もあったそうですが、このように現在でもきちんと保存されているのは、島津家が薩摩（鹿児島）の方に愛されていたからなのだろうと思いますし、親族もしっかりと守っていたのかもしれませんが。

（傷む 壊す 他へ転用 が一般的な例）

御殿は有料ですが、いたるところに着物を着た方がおり、建物や当時の島津家の暮らしぶりの説明役、つまりガイド役をしてくれています。

村上市でも有料の施設がありますが、人員の関係もあり説明の人がおらず、テープが流れるだけという施設が多くあります。やはり現地の人から説明を聞くと良いイメージが残りますので、なんとかこういったおもてなしの対応ができないか検討すべきと考えます。

また、仙巖園内の料理店は薩摩料理を出し、お土産屋もここでしか買えないお菓子、伝統工芸品も多数販売しており、ここに来ればありとあらゆる「薩摩」を感じとれるエリアであり、残念ながら観光施設が点在している村上市にはマネできない点ですので、施設と施設を結ぶアクセス方法を考え、既存のまちなか循環バスの利用もアピールし、時間を計算したモデルコースの提案およびPRも必要となってくると思います。

#### 【震災復興について】

平成27年秋に総務文教常任委員会で熊本県玉名市を視察し、国宝 熊本城も視察させて頂いたのですが、それから半年後の平成28年4月に熊本地震が起き、熊本城の石垣の崩落や、隣

接する益城町の被害が大きかったので、私自身熊本市にはあまり目がいかなかったのが事実です。

熊本地震は4月14日前震 マグニチュード6.5、4月16日本震 マグニチュード7.3が襲い、発生から15日間での余震の回数が3024回であり、阪神・淡路大震災 230回、新潟県中越地震 680回を大きく上回る余震の多い地震でした。

人的被害は死者87人、重傷者770人、住宅被害が全壊5764件、大規模半壊8966件、半壊3万8931件、一部損壊8万2587件（平成30年9月30日現在）、水道は最大で32万6000世帯が断水、電気は27万8400戸が停電、ガスは10万900戸が供給停止と、都市部ならではの被害が起き、熊本市職員が初めて経験する事態に動揺して、職員の安否・参集状況もわからない状況だったと聞きました。殺到する電話対応でパンク状態になり、対応マニュアルも役に立たない状態だったといえます。熊本市では避難する人が5万8000人と想定していましたが、それを上回る11万750人が避難したことから混乱も起き、後にアンケートで聞いたところ、指定避難所に避難した人の割合は32.8%、指定以外の避難所に避難した人の割合は65.9%、指定以外の人4割が車中避難という結果も出ました。車中避難は避難者の把握ができず、全国からの温かい支援も支援を受ける側の受け入れ体制も整っていなかったそうです。

熊本市では復興に向けた取り組みとして、り災証明の受付・被災家屋調査は福祉部門（受付・発行）と税務部門（調査）が連携して実施し、災害復興事業ワンストップ対応できる復興部（40人）を立ち上げ対応にあたりました。その他、避難所体制検討プロジェクトチームを市民局・政策局・財政局等が連携して避難所の集約および拠点化を図り、住まいと福祉に関するプロジェクトで都市建設局と健康福祉局が連携して市営住宅やサービス付高齢者向け住宅等を高齢者や障がい者に優先的に提供しました。

村上市では早めの避難勧告等を発令しており、夜間の避難などが出ないように発令時間については十分考慮されていますが、避難にしても区長様や民生委員への情報提供や告知がまちまちで、統一感がとれていない感じがします。熊本地震の時にはマニュアルが役に立たなかったと聞いたものの、まったくマニュアルがないと統率がとれませんので、計画よりも大きな災害を想定したマニュアルも作っておく必要があるかもしれません。また、村上市では避難所担当職員は地域割りのようですが、各課の専門員（たとえば保健師）を拠点避難所には必ず1名配置するなど、配置職員の検討もしたほうが良いと考えます。

## 本間清人委員

### 【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】

本年度は第一次世界大戦から100年目の年に、日本が日・独・伊の三国同盟の名のもと、アメリカ、旧ソ連、イギリス、フランスなどを中心とする連合軍と第二次世界大戦が起こり、結果、日本は世界で唯一の原子力爆弾を広島、長崎に投下され敗戦となりました。

世界にはもう戦争の記憶がある方は少なくなり、いずれはいなくなると思いますが、2度とこのような悲劇を繰り返してはならないと感じました。

知覧での特攻隊で帰りの燃料を積まず、相手空母や戦艦に零戦で体当たりする戦いに多くの尊い命を落とすことになったなかには、まだ17～20歳に方が多くおられました。私の子供も現在高校3年18歳で、同じ年の若者が最後の日本の地、知覧であのような手紙や笑顔を見ると、今の自分や子どもからは考えもつきません。

今の平和な日本の国の礎にこのような歴史があったことをこれからも忘れず残していく必要があると感じました。日本は二度と戦争という過ちを起こしてはなりません。

#### 【仙巖園・尚古集成館について】

今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」の舞台となった仙巖園を視察できた事に感謝します。なかなか個人で鹿児島への地に行く事は簡単ではありません。外様代名である島津家の力の大きさを感じました。当時の幕府は遠く離れた島津の力をかなり恐れていたのではないのでしょうか。また、当時の大名家で現在もあのような財団や企業を行っている家も多くはないと思いますが、島津家の莫大な財力に明治維新は鹿児島の人々の力は大きく影響を与えたのは言うまでもない事です。

また、鹿児島の人々の事を一番に考えた事での製鉄や紡績などは人々の暮らしも豊かにしたのではないのでしょうか。この事で村上市における取組みなどは良くわかりませんが、人を集める観光地となった今では、大河ドラマも重なって多くの方が来館しているように思います。村上にも自然や人、物でも良いのですが、人を集める事のできるものがあればと感じました。

#### 【震災復興について】

長い歴史のある、また、熊本の方々にはシンボルでもある熊本城が被害を受けたということは震度の大きさがわかります。日本は災害が多い国ですが、特に最近では九州から北海道まで、どこで災害が起こるかわからない感じです。ただ、不思議と城下町はあまり災害の被害は多くないように思っていました。昔の人の知恵でもあって安全な地に城を築いたのかと思いましたが、数百年もあった形が一瞬にして変えてしまう自然災害の恐ろしさを感じました。

タクシーの運転手さんや説明いただいた熊本市議会事務局の方も言っていました。災害の復興支援などで、大きな声では言えませんが、景気はミニバブルのようであると言っていました。話は違いますが、この景気動向が消費税率引き上げにつながったり、景気の上向きというのは違う気がいたします。

村上市は大変ありがたいことに最近の災害が多い日本のなかでも被害が少ないですが、いつ起きるかわからない災害にそなえる日々の訓練は大切だと思います。

### 佐藤重陽委員

#### 【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】

日本は世界唯一、原子力爆弾を投下された国です。被爆国として世界に同じ悲劇を繰り返

さぬよう、世界平和を唱え続けること。また、若い青年たちが戦争の中で特攻兵のような犠牲を強いられる歴史を繰り返さぬよう。後世に伝えることを使命とした施設です。平和への教育、啓蒙は戦時激戦地に限らず、皆が考え求める行動です。当村上市においても平和教育のあり方について子どもから大人まで学べる講座を企画できたらと考えます。

#### 【仙巖園・尚古集成館について】

島津斉彬公の別邸であり島津藩の資金源となる施設群として現代まで残していることに感心しました。古くから伝わるものに、新たな技術も加え延々と継続する事業力。これは島津家として民間事業運営を続けているからと考える。大切な歴史遺産といえども、何事も行政が関わるのではなく、適度な規制の中で民間活力に任せた歴史遺産の存続が垣間見える。村上市に残る歴史遺産の存続手法についてヒントを頂いた施設でした。

#### 【震災復興について】

熊本地震における被害及び復旧状況について市担当課の方々から説明頂きました。お陰様で当村上市において大きな自然災害は発生していませんが、いつ起こってもおかしくないのが近年の日本です。熊本市では災害マニュアルが機能せず、日々、混乱の連続とのことでした。災害の規模が大きくなれば当然の事と思いますが、それで済まず訳にはいきません。啓蒙活動をはじめ、実践に即したマニュアル作りが求められていると感じました。村上市のマニュアルも再度検討しなおす必要があると考えます。

### 三田議長

#### 【「知覧特攻平和会館」行政が取り組む平和教育について】

知覧の地は、昭和 16 年大刃洗軍飛行学校知覧分教所が開校、少年飛行兵、学徒出陣の特別操縦見習士官らが操縦訓練を重ねていましたが戦況が緊迫し険悪となり遂に昭和 20 年本土最南端の陸軍特攻基地となります。

この特攻平和祈念館は、第二次世界大戦末期の沖縄戦で人類史上類のない爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たりした陸軍特攻隊員の遺影、遺品、記録等貴重な資料を収集・保存・展示して当時の真情を後世に正しく伝え世界恒久平和を願う記念館でした。

平和の大切さ・ありがたさ・命の尊さを村上市の教育の中でも子供たちに伝えていく責務を感じました。

#### 【震災復興について】

熊本市は 2016.4.14.21.26 分にマグニチュード 6.5 最大震度 7 の前震が発生し、本震は 2016.4.16.1.25 分のマグニチュード 7.3 最大震度 7 の地震が発生しました。死者 87 名、重傷者 770 名、全壊 5,764 件、がけ崩れ被害戸数約 4,300 戸、被害額 16,362.9 億円。

< 市役所の対応 >

ほぼ全職員が初めて経験する事態に動揺・職員の安否・参集状況もわからない中、殺到する電話の対応でパニック状態、役に立たない対応マニュアル、電話もラインもつながらない。

思うようにいかない被災状況の情報収集、避難者であふれ混乱する避難所運営、一方で支援を受ける側の体制（受援体制）が整っていなかった。

< 復旧に向けた取り組み >

発災直後は、各部署のスキル不足もあり難航したが、福祉部門と税務部門が連携して、受付・発行部門福祉へ、調査は税務部門が担当してり災証明の受付・被災家屋調査を実施している。復旧と復興に向けた組織の新設に復興部の立ち上げを行った。①復興総務課②生活再建支援課③住宅再建支援課がそれぞれに分担した。

その他、避難所体制プロジェクト、住まいと福祉に関するプロジェクト、ワンストップ窓口の開設を行っている。

村上市も今年度は度重なる避難所の開設があり、いつ災害に見舞われるかわからない状況の中、このマニュアルはとても参考になりました。